

# 2023年12月26日掲載 ユソー新聞

## EVトラック3台 同社・県内初の導入

### 第一貨物 出発式を開催

第一貨物は11日、山形市黄金の山形支店で三菱ふそうトラック・バスのEVトラック「eCanteE」の出発式を開催した。カーボンニュートラルの取り組みの一環として同社初、山形県内の物流事業者として初めての導入となる。

山形・東京（東京都江東区・門真支店）大阪府門真市）に各1台、計3台を配備した。集配業務に活用し、温室効果ガスの排出削減につなげていくとともに、従来のトラックに比べて騒音、振動が少なく、加減速がスムーズであることが



導入した3台のEVトラック



第一貨物株式会社  
トラック  
**CANTER 出発式**  
ゴールドキーの贈呈  
(右・米田社長)

ら、ドライバーの負担軽減などの効果も見込んでいる。車両総重量6700kg、最大積載量2300kg、運行航続距離236km

（国土交通省審査値）、満充電時間16時間。今後、環境対策の効果検証等を踏まえ、導入拡大を検討していく。

出発式は松田伸三常務取締役が開会の辞を述べた後、米田総一郎社長が主催者あいさつに登壇。

米田社長はまず、県内の物流事業者で初の導入となったことをはじめ、植林・草刈り活

動の継続的実施、ハイブリッド車の導入、廃てんぷら油を再利用したトラックの活用など、同社の環境対策への取り組みを紹介した上で、「ようやくこころでたどり着いたというのが率直な感想」と述べ、EVトラックの早期の導入を望んでいた思いを語った。

初期のeCanteEは航続距離の点でやむなく導入を見送ってきただが、第3世代となる新型eCanteEは航続距離が200kg以上のデータもあるなど、集配業務の実用に十分な性能を有している」と判断したと述べた。

「EVトラックの導入を通じて、少しでも環境改善の方向に進んでいくことを祈念している」と語った。

来賓あいさつした山形県トラック協会の藤澤貞二会長は「県内初のEVトラック導入は注目を集める先進事例で、ぜひとも導入効果や使い勝手などの情報を提供してもらい、会員事業者の導入検討につなげることを期待している」と語った。

三菱ふそうトラック・バスの林弘之特販部長から米田社長にゴールドキーが贈呈され、テープカットを行い、3台のEVトラックが出発した。